



大都市では、当たり前前の様に様々な雑音（騒音）がひしめいています。特に幹線道路沿いや鉄道沿いでは、不快とも言える騒音です。また市街地ではなく静穏なところでも、人の話し声が余計に聞こえてきたりして、隣家の音に悩まされることもあるでしょう。

そういった騒音を回避するために、近畿大学環境科学研究所が興味深い実験結果を報告しています。

宅地で隣家との境界を、高さ1500mm厚み100mmの生け垣にしたところ、騒音が約二割に軽減できたというのです。

な環境では、飛行機の音でさえ小さくなると思います。

屋上緑化と壁面緑化を効率的に行えば、遮熱・断熱効果の他にも、騒音緩和も得られる事になります

防砂林というものがあります。幹線道路沿いに木々を植えると周辺への影響がかなり緩和できるところでしょう。鉄道なども含めて地響きなどはどうにもならないと思います。騒音が緩和されるだけでもかなりの進歩かと思えます。

道路や鉄道沿いに敷設するのは、規模も



大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

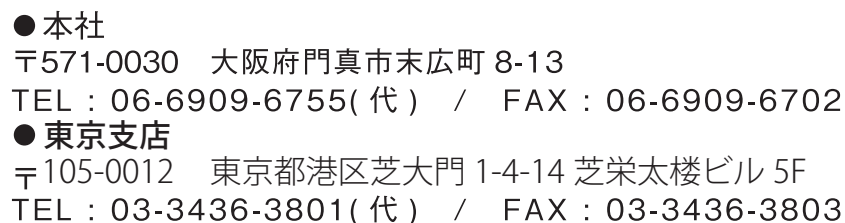
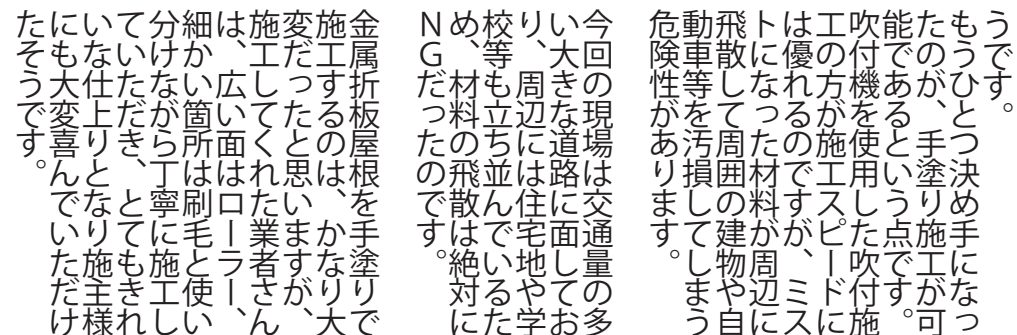
京都府内某工場屋根改修に「ビッグサンMR-1工法」を採用頂きました！

京都府内の某工場の金属折板屋根の改修工事に、弊社「ビッグサンMRー1工法」を採用頂き、無事に施工も完了しました。今回「ビッグサンMRー1工法」が採用に至った経緯についてレポートさせていただきます。

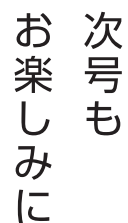
「ビッグサンMRー1工法」は水性アクリル系樹脂を主成分とした高柔軟性のポリマーセメント系塗膜防水工法です。トップコートに使用している「ビッグサントップUR」は太陽熱高反射塗料となつているため、屋根表面の温度上昇を抑制します。防水効果はもちろん、防錆・遮熱・遮音等の様々な効果により、金属屋根を長期にわたり保護します。

カバー工法やシート工法等に比べて軽量(MRー1工法の場合、防錆プライマーから最終工程のトップコートまで含めて1㎡あたりの重量がわずか2kg以下です)で、複雑な形状の箇所でもシームレスな防水塗膜を形成することが可能です。

今回の現場でもカバー工法等の検討もされたらしいのですが、将来的に屋根の上に太陽光パネルを設置する計画があり、なるべく軽量な防水工法が求められた事が採用の大きなポイントになったよ



大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



URL : <https://dainichikasei.cp.jp>

大日新聞 63号で取り上げました「MINAMATA」では、工場排水を海に流し続けた事が原因で住民へ健康被害を被らせた実話に基づいたお話でしたが、今回のサムジンカンパニー1995はそれの韓国版ともいえるストーリーです。

サムジンカンパニーとは実在しない架空の会社名で実際には斗山（ドウサン）グループの子会社、斗山電子がフエノールを川に排出したことから近隣の大邱（テグ）水域の貯水槽に混入。悪臭が水道水からでていると苦情を受けた浄水場職員が安易に塩素を消毒剤として大量に投入し被害

を拡大させました。フェノールが塩素と化学反応を起こし、クロロフェノールが合成されたことが悪臭発生の原因だったのです。

町の水道水からは強い悪臭が出て市民達は水を利用することが出来なくなり、飲食店などでは営業もままならず食品工場では製品を廃棄せざるを得なくなりました。またこの事件が起きたのが土曜日であったことから役所の対応も遅れ被害がより大きくなったと言われています。

フェノール排出の原因として、廃フェノールは本来焼却することになっていたのですが、焼却

す。そしてその排出は必ず雨の日に流し出すというもので、本作品でも雨の日に排出されているところが描かれています。

後に秘密排出口といえるものが発覚し、斗山電子側は否定するものの長きにわたり廃フェノールを排出し続けていたことが既成事実となりました。焼却炉が故障しても修理をせず秘密の排出口をつくり処理出来ない分を故意に流していたというものです。

斗山電子は破損したタンクの補修を行い操業停止期間終了後に創業を再開したのですが、わずか11日後に再びフェノールを大量に排出してしまします。さすがにこれは故意では

斗山電子への補償問題は大きなものとなり国側としても管理責任として環境大臣が更迭されました。二度とこうした事がおこらないように国を挙げて取り組んでいるところは非常に評価すべき事であると思います。

日本でも相当な改善などの取り組みは行われていますが、環境大臣の首が挿げ替わることはまずないでしょう。人的被害が無かったにも関わらず大臣を変えてまで取り組むというところは、見習って欲しいと思います。

Vol.65

映画で学ぶ 環境問題



監督：イ・ジョンピル
脚本：ホン・スヨン
ソン・ミ
出演者：コ・アソン
イ・ソム
パク・ヘス

上映：110分
公開：2020年

炉が一基故障していたにもかかわらず修理しておらず、処理しきれないフェノールが大量に保管されていた。廃フェノール貯蔵タンクに連結されたパイプが、何らかの原因で破裂しフェノールが一挙に流れ出たといわれています。

この事件で斗山電子工場の幹部だけではなく、取締管轄の行政役人も起訴されています。役人まで？と思われるかもしれませんが、定期的な立ち入り検査の際に焼却炉が故障していることに気付かなかった、噂のあった秘密の排出口も見つけることが出来ず、形式的なもので済ませていたというのが理由のようです。

なく事故なのですが、操業をあわてたために付け焼き刃的な修理を行っており、それが災いしての事故だったようです。

幸いなことに前回の経験から町に供給はされず被害は出ませんでした。が、半日程度の断水を余儀なくされました。こういったことから、国も本腰をあげ役所の管理体制を再検討して人員を増やしたうえで検査内容をより細かくするような処置が執られています。

工業団地を生活用水を取水する川の上流に設けたためにおこってしまったこともあり、以後工業団地の在り方についても再考されているようです。